



2019年3月期第1四半期決算 プレゼンテーション資料

2018年7月
大阪ガス株式会社

目次

I. 19.3期第1四半期実績

19.3期第1四半期決算のポイント	- 4
19.3期第1四半期実績	- 5
19.3期第1四半期販売実績	- 8
家庭用ガス販売	- 9
業務用等ガス販売	-10
19.3期第1四半期成長投資実績	-11

II. 参考資料 (1)

19.3期第1四半期差異(対前年)	-13
年度見通しに対するリスク要因	-15
19.3期第1四半期主なトピックス	-16

III. 参考資料 (2)

19.3期見通し	-18
19.3期販売見通し	-21

I. 19.3期第1四半期実績

インターネットを通じて定期的に経営情報を発信しています : 下記のURLで、決算短信、アニュアルレポート、説明会資料等を閲覧・ダウンロードすることが可能です。<http://www.osakagas.co.jp/company/ir/>

「見通し」に関する注意事項 : このプレゼンテーションには、将来の業績に関する見通し、計画、戦略などが含まれており、これらは現在入手可能な情報から得られた当社グループの判断に基づいております。実際の業績は、さまざまな重要な要素により、これら業績の見通しとは大きく異なる結果となりうることをご承知おきください。実際の業績に影響を与えうる重要な要素には、日本経済の動向、急激な為替相場・原油価格の変動並びに天候の異変等があります。

ガス販売量に関する注記 : 全て、基準熱量を45MJ/m³として、表記しています。

連結ガス販売量に関する注記 : 名張近鉄ガス・豊岡エネルギー・新宮ガスは12月決算です。

本日は、お忙しいところ、当社の電話会議説明会にご参加いただき、ありがとうございます。

ただ今から、2019年3月期 第1四半期決算について、弊社ホームページで開示しておりますプレゼンテーション資料に沿って、簡単にご説明させていただきます。

19.3期第1四半期決算のポイント

対前年比較

■ 概況(連結)

売上高	電力事業での販売量の増加等により、 前年比1.5%(43億円)増収の2,971億円
経常利益	競合影響や気水温影響によるガス販売量の減少等により、 前年比9.2%(23億円)減益の233億円 スライド差損は66億円(前年度は70億円のスライド差損)

■ ガス販売量(個別)

家庭用	他社へのスイッチングや春先の気水温が高く推移し、給湯・暖房需要が減少したこと等により、 前年比11.8%(62百万m³)減少の462百万m³
業務用等	他社へのスイッチングや特定のお客さま先での減少等により、 前年比8.2%(127百万m³)減少の1,415百万m³

■ 電力販売量(連結)

国内電力販売量	小売・卸の販売量が共に増加したことにより、 前年比21.6%(464百万kWh)増加の2,614百万kWh
---------	---

4

資料の4ページをご覧ください。こちらに決算のポイントをまとめております。

2019年3月期 第1四半期は、増収・減益の決算となりました。

売上高は、電力事業での販売量が増加したこと等から、前年と比べて43億円増収の2,971億円となりました。

経常利益は、競合影響や気水温影響によるガス販売量の減少等により、前年と比べて23億円減益の233億円となりました。なお、スライド差損は66億円となりました。

資料には記載していませんが、当初の想定に対しては、ガス事業において高気水温影響によるガス販売量減等がありましたが、ゴーゴンプロジェクトの販売増等による海外エネルギー事業の増益等により連結経常利益は概ね当初の想定通り推移しています。

ガス販売量について、家庭用は、他社へのスイッチングや春先の気水温が高く推移したこと等から、前年を11.8%下回る4億6,200万立方メートルとなりました。

業務用等は、他社へのスイッチングや特定のお客さま先での稼働減等から、前年を8.2%下回る14億1,500万立方メートルとなりました。

連結の電力販売量については、小売・卸の販売量が共に増加したことにより、前年を21.6%上回る26億1,400万kWhとなりました。

19.3期第1四半期実績 I

連結:億円	A. 19.3期 1Q	B. 18.3期 1Q	A-B	(A-B)/B(%)	備考
売上高 ()内は連単倍率	(1.23) 2,971	(1.26) 2,927	+43	+1.5%	電力販売量の増加等
営業利益	(2.16) 207	(1.42) 237	-29	-12.4%	競合影響・気水温影響等 によるガス販売量の減少 等
経常利益	(1.32) 233	(1.14) 257	-23	-9.2%	
四半期純利益*1	(1.15) 156	(0.99) 174	-17	-10.2%	震災影響等
EBITDA	433	454	-20	-4.5%	

*1 親会社株主に帰属する四半期純利益

スライド差損益	-66	-70	+3	-	
スライド差損益控除後 経常利益	300	327	-27	-8.4%	

原油価格*2	\$/bbl	70.5	53.4	+17.2
為替レート	円/\$	109.1	111.1	-2.0

*2 19.3期1Q原油価格実績は、6月速報値までの平均。

5ページには、19年3月期 第一四半期の実績数値をまとめておりますので、ご確認ください。

親会社に帰属する四半期純利益は、前年に比べて17億円減益の156億円となりました。
なお、大阪府北部を震源とする地震による損失15億円を特別損失に計上しています。

19.3期第1四半期実績Ⅱ(セグメント別実績)

単位:億円	売上高			セグメント利益*1			備考
	A.19.3期 1Q	B.18.3期 1Q	A-B	A.19.3期 1Q	B.18.3期 1Q	A-B	
国内エネルギー・ ガス*2	2,204	2,284	-80	113	173	-59	売上:LPG事業の再編影響等 利益:競合影響・気水温影響 等によるガス販売量の減等
国内エネルギー・ 電力	371	282	+89	21	21	-0	売上:電力販売量の増加等 利益:昨年度の値下げ影響等 により前年並み
海外エネルギー	113	44	+69	48	7	+41	売上:ゴゴン販売増等 利益:ゴゴン販売増・ フリーポート関連の増等
ライフ&ビジネス ソリューション*2	467	434	+33	31	29	+2	売上:材料・情報事業の 販売増等 利益:概ね前年並み
消去又は全社	-186	-117	-68	4	7	-2	
連結	2,971	2,927	+43	220	238	-18	

*1 セグメント利益＝営業利益＋持分法投資利益

*2 19.3期1Qより、大阪ガスエンジニアリング(株)のセグメントを「ライフ&ビジネス ソリューション」から「国内エネルギー・ガス」に変更しました。
18.3期1Q実績は、変更後の内容で試算しています。

内、ヘッジ会計適用外のDV時価評価影響
19.3期1Q 13、18.3期1Q -1、前年差+14

6ページは、セグメント別の実績になります。

国内エネルギー・ガスセグメント利益は、競合影響や気水温影響等により、前年と比べて、59億円減益の113億円となりました。

国内エネルギー・電力セグメント利益は、電力販売量は増加しましたが、昨年8月の電気料金の値下げの影響等により、前年並みの21億円となりました。

海外エネルギーセグメント利益は、ゴゴンプロジェクトの販売量が増加した影響や、フリーポートプロジェクトの会計影響等により、前年と比べて41億円増益の48億円となりました。

ライフ&ビジネスソリューションセグメント利益は、概ね前年並の31億円です。

19.3期第1四半期実績 III

連結:億円	A. 19.3期 1Q末	18.3期 1Q末	B. 期末	A-B	備考
総資産*1	18,598	18,179	18,972	-374	流動資産の減少等
自己資本	9,939	9,660	9,995	-56	
有利子負債	5,383	5,208	5,037	+345	
在籍人員(人)	20,354	21,221	19,997	+357	
自己資本比率*1	53.4%	53.1%	52.7%	+0.8%	
D/E比率*1	0.54	0.54	0.50	+0.04	

連結:億円	A. 19.3期1Q	B. 18.3期1Q	A-B
設備投資	178	167	+10
減価償却費	213	215	-1
フリーキャッシュ・フロー*2	-335	-143	-192

*1 「税効果会計に係る会計基準」の一部改正を考慮して算定

*2 フリーキャッシュ・フロー=営業活動によるキャッシュフロー(税引後営業利益+減価償却費等非現金支出)-通常の設備投資による支出

資産・負債項目や、主な財務指標の実績は、7ページの通りです。

19.3期第1四半期販売実績

■ ガス販売 45MJ/m³

*1 ガス供給件数=取付メーター数 - 閉栓中メーター数(空家等) - 他社ガス供給件数
*2 用途別の差異要因はP.9・10に記載

	A. 19.3期1Q	B. 18.3期1Q	A-B	(A-B)/B(%)
個				
ガス供給件数(千件、期末時点)*1	5,847	6,129	-282	-4.6%
新設工事件数(千件)	23	24	-1	-5.5%
家庭用1戸当り販売量(m ³ /月)	27.2	29.4	-2.2	-7.4%
別				
家庭用*2	462	524	-62	-11.8%
業務用等*2	1,415	1,541	-127	-8.2%
ガス販売量合計(百万m ³)	1,877	2,065	-189	-9.1%
連結ガス販売量	1,888	2,076	-188	-9.1%

■ 電力販売(連結)

	A. 19.3期1Q	B. 18.3期1Q	A-B	(A-B)/B(%)
小売	601	360	+241	+67.1%
卸等	2,013	1,791	+222	+12.4%
国内電力販売量(百万kWh)	2,614	2,150	+464	+21.6%
低圧電気供給件数(千件)	702	375	+327	+87.3%

■ お客さまアカウント(連結)

	A. 19.3期1Q	B. 18.3期末	A-B	(A-B)/B(%)
お客さまアカウント数(万件)	862	827	+34	+4.1%

8

8ページは、冒頭でご説明しましたガス、電力の販売実績について、詳細にまとめておりますので、ご確認ください。

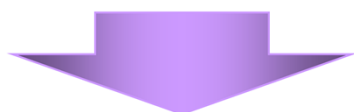
低圧電気供給件数は、2018年6月末時点で70万2千件となり、7月30日時点では、約72万件となりました。

お客さまアカウント数は、ガス事業での離脱影響はありましたが、ガス事業での新設や電力小売契約の獲得に加え、今年の4月から住ミカタ・プラスのサービスを拡充し、2018年3月末から34万件増の862万件となりました。

家庭用ガス販売

19.3期1Q実績

	対前期	備考
調定件数	-4.6%	他社へのスイッチング等
気水温影響	-3.5%	平均気温20.1度(対前期+0.3度)
その他	-3.7%	検針日数影響、ガス機器の高効率化、世帯人数減少等
合計	-11.8%	



19.3期見通し

4/26公表の見通しから変更なし

- 平年気温を前提とし、前年度の低気水温影響の反動、離脱影響等を織込むことで、前年比-9.4%、202百万m³減の1,957百万m³を見込む。

9ページ、10ページにはガス販売量の増減要因について記載しております。

家庭用ガス販売量では他社へのスイッチングや、気水温が昨年に比べて高く推移した影響等により、前年比-11.8%となりました。

業務用等ガス販売

19.3期1Q実績

	対前期	備考
需要開発	+1.0%	設備導入、燃料転換等
気水温影響	-0.5%	
設備稼働増減	+0.5%	景気影響による稼働増等
個別要因	-7.8%	他社へのスイッチング、特定のお客さま先での減少
その他	-1.3%	
合計	-8.2%	



19.3期見通し

4/26公表の見通しから変更なし

- 離脱影響、特定のお客さま先での減少等を織込むことで、前年比-10.2%、654百万m³減の5,732百万m³を見込む。

業務用等のガス販売は、他社へのスイッチングや、特定のお客さま先での稼働減少等により、前年比-8.2%となりました。

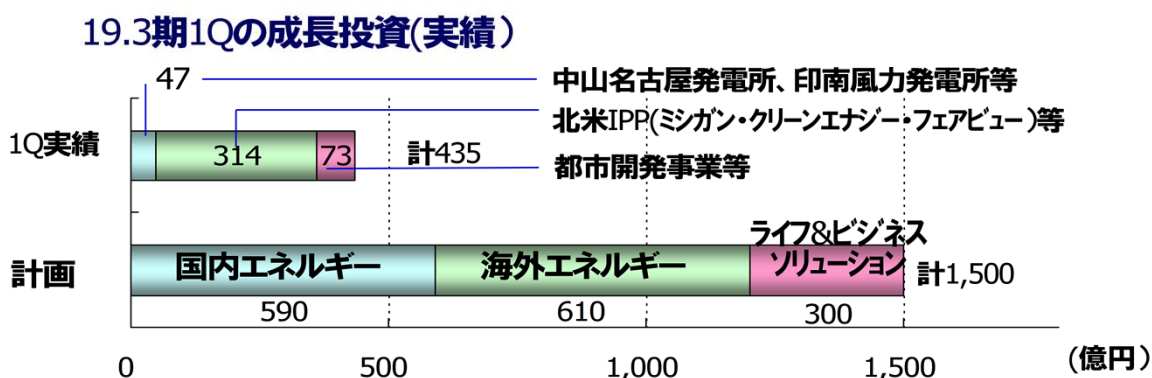
なお、今年度の見通しについて変更はありません。

19.3期第1四半期成長投資実績

■ 19.3期1Qの投資実行額は435億円(年間計画の29%)

- ・国内エネルギー：47億円(主に電力事業など)
- ・海外エネルギー：314億円(主に北米IPP事業など)
- ・ライフ&ビジネスソリューション：73億円(都市開発事業など)

投資実行額には設備投資案件と投融資案件の両方を含むため、設備投資の実績値とは異なります。



11

11ページに、成長投資実績について記載しておりますので、ご確認ください。

成長投資実行額は435億円で、年間計画に対して29%の進捗です。
内訳は、国内エネルギー47億円、海外エネルギー314億円、ライフ&ビジネスソリューション73億円となりました。

最後に、昨日、当期内に一般ガス供給約款料金の改定を行うための検討を開始することを発表いたしました。

今回の改定は、前回の2015年1月の改定以降の経営効率化の成果や、今後のさらなる効率化努力による固定費削減等を踏まえて行うものです。

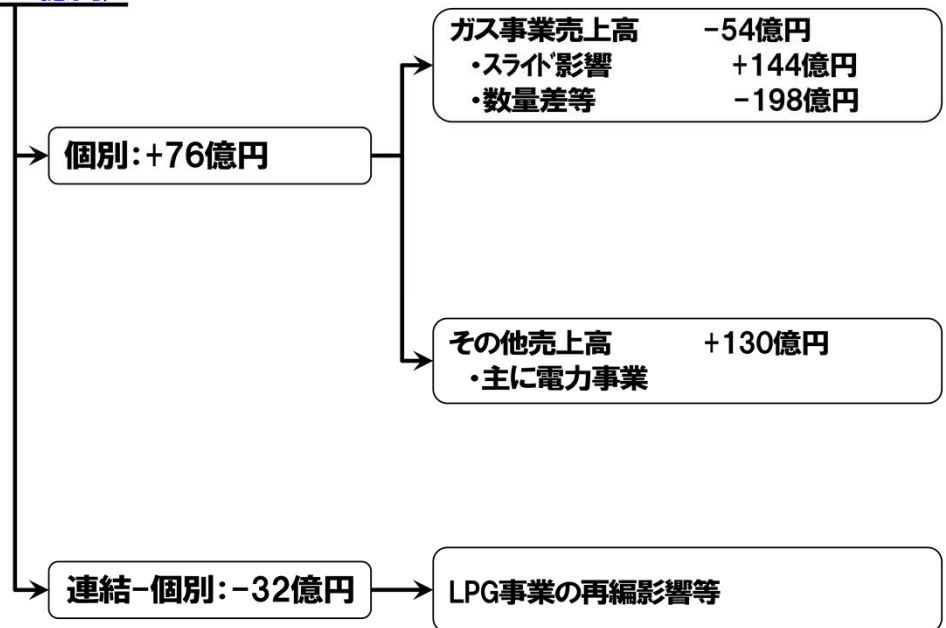
具体的な内容は、決まり次第、速やかに公表いたします。

以上で、2019年3月期 第1四半期決算についてのご説明を終わらせていただきます。

II. 参考資料 (1)

19.3期第1四半期の売上高差異(対前年)

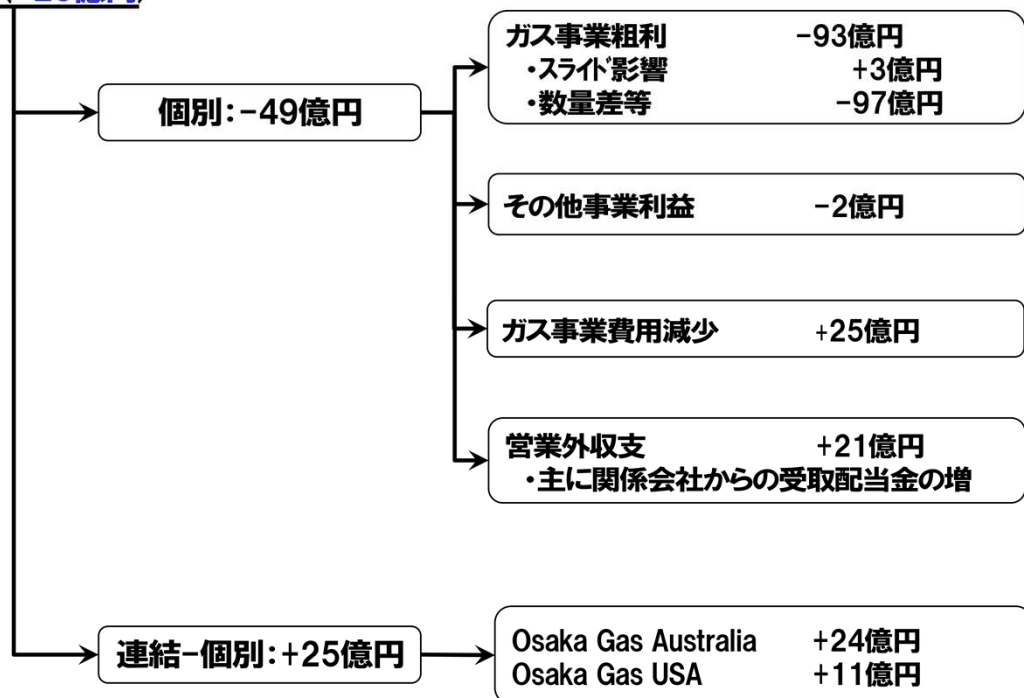
18.3期1Q → 19.3期1Q (差異)
 2,927億円 2,971億円 (+43億円)



19.3期第1四半期の経常利益差異(対前年)

18.3期1Q → 19.3期1Q (差異)
 257億円 233億円 (-23億円)

+-の符号は利益への影響を表す。



年度見通しに対するリスク要因

■ 気温・水温

- 気・水温1度の変化に対し、家庭用ガス販売量は、春秋期約7%・夏期約8%・冬期約6%変動する可能性がある。

■ 原油価格

- LNG価格が原油価格にリンクすることなどから、原油価格+1\$/bblの変化に対し、今年度第2四半期以降の連結経常利益は約-11億円変動する可能性がある。

■ 為替レート

- LNG価格が米\$・円の為替レートにリンクすることなどから、為替レート+1円/\$の変化に対し、今年度第2四半期以降の連結経常利益は-9億円変動する可能性がある。

■ 原料費

- 原料費調整制度によって、中長期的には原料費の変動はガス料金に転嫁されるが、反映までのタイムラグや原料調達先の構成によって、業績に影響を与える可能性がある。

■ 金利

- 金利+1%の変動に対し、19.3期の連結営業外費用が年間+4億円変動する可能性がある。

19.3期第1四半期主なトピックス

- 6月 米国テキサス州におけるシェールガス生産開発事業への参画
- 6月 大阪北部を震源とする地震発生、11万戸のガス供給停止
- 6月 首都圏におけるエネルギー等の販売事業の開始
- 6月 印南風力発電所の営業運転の開始
- 5月 台湾におけるLNG受入基地建設に係るコンサルティング業務の受注
- 5月 米国コネチカット州における天然ガス火力発電事業への参画
- 5月 「復旧見える化システム」の開発
- 4月 米国ベンチャーファンド WiL Fund II, L.P. への出資
- 4月 米国ミシガン州における天然ガス火力発電事業への参画
- 4月 株式会社ライアンスエナジー沖縄への出資
- 4月 株式会社C Dエナジーダイレクトの設立

※プレスリリース実施月を記載

Ⅲ. 参考資料 (2) 19.3期見通し

4月発表時の見通しから、変更ありません。

但し、2018年度第1四半期より、大阪ガスエンジニアリング(株)のセグメントを「ライフ&ビジネス ソリューション」から「国内エネルギー・ガス」に変更しました。P19 の18.3期実績は、変更後の内容で試算しています。

19.3期見通し I

連結:億円	A. 19.3期 見通し	B. 18.3期	A-B	(A-B)/B(%)	備考
売上高 ()内は連単倍率	(1.25) 13,600	(1.25) 12,962	+637	+4.9%	ガス事業のスライド影響等
営業利益	(1.97) 740	(1.64) 781	-41	-5.3%	ガス事業における前年度の低気水温影響の反動、競合影響等
経常利益	(1.51) 700	(1.32) 770	-70	-9.2%	
当期純利益*1	(1.29) 465	(0.86) 377	+87	+23.3%	前年度の上流事業減損の反動
EBITDA	1,605	1,671	-66	-3.9%	
*1 親会社株主に帰属する当期純利益					
スライド差損益	27	5	+22	—	
スライド差損益控除後 経常利益	672	765	-93	-12.2%	
原油価格*2	\$/bbl	65.0	57.0	+8.0	
為替レート	円/\$	110.0	110.9	-0.9	

*2 18.3期原油価格実績は、3月速報値までの平均

19.3期見通しⅡ

単位:億円	売上高			セグメント利益*1			備考
	A.19.3期 見通し	B.18.3期	A-B	A.19.3期 見通し	B.18.3期	A-B	
国内エネルギー・ ガス*2	9,940	9,762	+177	350	429	-79	売上:スライド影響等 利益: 前年度の低気水温影響 の反動、競合影響等
国内エネルギー・ 電力	1,970	1,577	+392	165	207	-42	売上:販売量増等 利益:競合影響等
海外エネルギー	295	225	+69	20	-53	+73	売上:ゴーゴン販売増等 利益: 前年度の北米IPP持分 売却影響の反動等
ライフ&ビジネス ソリューション*2	2,080	2,014	+65	190	182	+7	売上: 材料事業の販売増等 利益: 概ね前年並で推移
消去又は全社	-685	-618	-66	20	17	+2	
連結	13,600	12,962	+637	745	783	-38	

*1 セグメント利益＝営業利益＋持分法投資利益

*2 19.3期第1四半期より、大阪ガスエンジニアリング(株)のセグメントを「ライフ&ビジネス ソリューション」から「国内エネルギー・ガス」に変更しました。
18.3期実績は、変更後の内容で試算しています。

19.3期見通しⅢ

連結:億円	A. 19.3末 見通し	B. 18.3末	A-B	備考
総資産*1	19,347	18,972	+374	
自己資本	10,231	9,995	+235	
有利子負債	5,247	5,037	+209	
在籍人員(人)	20,555	19,997	+558	オーヂス総研G、Jacobiなど
自己資本比率*1	52.9%	52.7%	+0.2%	
D/E比率*1	0.51	0.50	+0.01	
	A. 19.3期 見通し	B. 18.3期	A-B	備考
設備投資	900	817	+82	供給設備の増加など
減価償却費	849	887	-37	
フリーキャッシュ・フロー*2	560	1,163	-603	運転資本の増加など
ROA	2.4%	2.0%	+0.4%	
ROE	4.6%	3.8%	+0.7%	
EPS(円/株)	111.8	90.7	+21.1	
BPS(円/株)	2,460.2	2,403.7	+56.6	

*1 「税効果会計に係る会計基準」の一部改正を考慮して算定

*2 フリーキャッシュ・フロー=営業活動によるキャッシュフロー(税引後営業利益+減価償却費等非現金支出)-通常の設備投資による支出

19.3期販売見通し

■ ガス販売 45MJ/m ³		A. 19.3期見通し	B. 18.3期実績	A-B	(A-B)/B(%)
個別	家庭用	1,957	2,160	-202	-9.4%
	業務用等	5,732	6,387	-654	-10.2%
ガス販売量合計(百万m ³)		7,690	8,546	-857	-10.0%
連結ガス販売量		7,723	8,580	-857	-10.0%

■ 電力販売(連結)		A. 19.3期見通し	B. 18.3期実績	A-B	(A-B)/B(%)
国内電力販売量(百万kWh)		11,671	10,951	+720	+6.6%

■ お客さまアカウント(連結)		A. 19.3末 見通し	B. 18.3末	A-B	(A-B)/B(%)
お客さまアカウント数(万件)		890	827	+63	+7.6%

以 上